



ジオだより



三陸ジオパーク推進協議会

♪ さんりくジオイベント@イオンタウン釜石 開催 ♪

《さんりくジオパークかわらばん全作品展&古代の海のいきもの化石展》

2月17日(土)18日(日)の二日間にわたり、イオンタウン釜石のイベント広場にて開催したジオパークのイベントは、家族連れを中心にたくさんの来場者で賑わいました。市町村のマスコットキャラクターも登場し、写真撮影からスタンプカードを持って各コーナーを体験してもらう企画は

- ①化石展示コーナーのお話会(協力:大船渡市立博物館)
- ②三陸鉄道ヴァーチャル体験のXRDoor(協力:KDDI(株))
- ③アンモナイトレプリカづくり などなど……



イオンタウン釜石の2階メイン通路に作品展示



アンモナイトレプリカ作りは毎回好評



各地の特産品が当たるかも! ワクワク♪

今回は出張ミニ展示・解説会を博物館の学芸員さんが担当していただき、本格的な博物館のスペースが登場しました。気仙沼市と久慈琥珀(株)からもご協力をいただき、三陸ジオパークならではのイベントとなりました。

イベントよりも先行して開催していた「かわらばん作品展」も多くのお買い物客の目に留まり、子供たちの作品から地域の魅力を感じていただいていたようです。

イオンタウン釜石、イオン環境財団様のご厚意により、今回も冬季に屋内でジオパークのイベントを開催できたことに感謝申し上げます。



うにっちも学芸員さんのお話にフムフム(^.^)

《クイズスタンプラリーでジオパークガチャ》

三陸ジオパークのエリアの市町村に協力いただき、ガチャで出てくる賞品には各地の特産品を用意しました。カプセルに入っているカードで何が当たるか? 子供も大人もなぜが楽しいガチャは、大好評でした。同時に行ったアンケートでは、「楽しそうだったから参加した」「ジオパークは知っている。聞いたことがある」という回答が多かったです♡

《ジオフードの話 宮古市日出島周辺のホタテ》

「日出島」は宮古市崎山地区の日出島漁港から東約600mに位置し、周囲を30m~40mの断崖に囲まれた無人島で一億年以上前に海に堆積した地層からできています。

宮古市の日出島地域の海は宮古湾の北に位置し、外洋の荒々しさと内湾の静けさを併せ持つ、潮通しの良い海です。

常に新鮮な海水が流れているため、プランクトンが発生しやすく、ホタテなどの海の生き物にとっては最高の環境と言え、この環境の中、耳吊り方式で育てたホタテは肉厚で歯ごたえが良く、甘みが強くなります。

日出島の海域でホタテを生産している「(株)隆勝丸」さんでは地元のお祭りなどで、日出島産の新鮮なホタテ焼きを提供し、訪れた方々から大変好評です。



何年物のホタテかな?大きさにびっくり!!

三陸ジオパークシンポジウム ④

パネルディスカッション「三陸の地形の歴史・文化資源の磨き方～三陸ファンを作ろう」より

*前号に引き続き、昨年8月6日に開催された「三陸ジオパークフェスタ」シンポジウムの様子をお伝えします。

海津ゆりえ先生の講演のあと、「三陸の地形の歴史・文化資源の磨き方～三陸ファンを作ろう」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。「三陸に人が来るにはどうしたらいいか?」「地域の人とその地域の多くの魅力に気づいていくには?」という問いかけから始まったディスカッションの席において、交わされたパネリストの御発言を要約し、連載してきましたが最終回となります。

ご登壇いただいた方々

基調講演/パネリスト

海津ゆりえ氏
文教大学

坂田雄平氏
NPO法人いわてアートサポートセンター

伊藤実知子氏
三陸ジオパーク認定ガイド

パネリスト

長谷川晋氏
一般社団法人トレイルプレイズ
ハイキング研究所

金子太一氏
普代村商工会
青年部長

総括

弓削貴久氏
地球の歩き方総合研究所
事務局長

ファシリテーター

相澤久美氏
NPO法人
みちのくトレイルクラブ

パネリスト5 海津ゆりえ氏（文教大学）

人の温かさがほかの地域にはない、東北一番の魅力で、何度も来たくなる。地域に行って「自慢は何か」と尋ねるとたいてい「何もない」と言われるがそんなことはない。なので、地域に入って魅力を見つけようと始まるが、宝探しそのものを地域の中に仕掛けることができる。

いくつか方法があって、まち歩き・アンケート・地元の人と曆を作る・・・その地域の人に「みんなで作りましょう」と持ち掛ける。身近なものでいいから、何かないか？自慢できるものは何だろうか？から始める。

また、外から来た人と出会う場を地域の中に見つけ出して「旅人に聞く」。それらを繰り返していくところから自慢の種が見つかってくるもの。



ツアーからそれぞれ行った先で体験できるプログラムが、同じ方向を見ていることが大事。場面が変わっても各段階で関わる人たちが同じメッセージを共有できていたり、語られているためには事前の同意形成から始めることが重要。

来るたびに新しいものに出会えることを前提として、絶対に一回で終わらないツアーづくりをする。つながり作りを盛り込みながら次の旅に続く仕組みを作る。ガイドプログラムの中に地域の人がちょっと顔を出すとところをその都度違うように組みこむ。

学校の5教科にすごく不満。なぜ「地球」という名の教科がないのか。もし地球科が作れたならここは絶対に優れた日本一の教材になると思う。そんな観点で子供向けの学ぶことが上手な日本人向けのプログラムを作ってはどうか。始めたらやめないで、共に歩みましょう。

総括 弓削貴久氏（地球の歩き方総研）

出版社でありながら旅を使って地域を元気にしたいという想いで「地球の歩き方総合研究所」を立ち上げ、復興庁から海外からの旅行者を増やしたいという話を受けて6期連続で東北を応援。みちのく潮風トレイルに海外から誘客する事業なども行っている。

三陸は観光資源が豊富で伝統芸能もあるが、それをストーリーとして繋げないと売れないので10日間のツアーを作ったところ、海外富裕層向けの旅行を作っている会社からこんなにバリエーションが豊富なトレイルは他にないということを知った。他にもツアーを作り、認知促進のため、メディアをつかってPR、パンフレット作成、ガイド研修(全国通訳案内士、地域通訳案内士安全管の基本コミュニケーション、トレイルの知識)定期的実施したが、訪問客が増えると受け入れ環境もしっかりやっつけていかなければならないところとなる。



熊野古道が10年かかって大成功しているが、地道に地域の理解を得て、住民と旅行者共に有益な関係作りを構築してきた。それが重要。地域の人々の生活を壊さないローインパクトの観光地づくりは来てもらう相手を受け入れ側で選んでよいのである。それと景観を守る法律や看板についても重要になる。

みちのく潮風トレイルは世界に誇れる日本を代表するトレイルと言えるので、自信を持って一緒にやっつけていけたら良い。間違いなく東北を代表するキラークンテンツになる。

地域の魅力を知る秘訣は他の地域に旅をすること。自分の地域と比較することによって、その魅力に気づくものである。

ファシリテーター **相澤久美氏(NPO法人みちのくトレイルクラブ)**

素晴らしい自然も食も日本中にあるが、三陸には他にまだない1,000キロを一本に繋いで歩けるロングトレイルがあり、現在国内外から注目を集めている。

地域の人々がトレイルを歩くと「歩かないと気づかないことがあった」とよくおっしゃるので、ぜひ歩いてみてほしい。歩くからこそ気づけることがある。目の前にあるささやかなことが、もしかしたら世界から見たらすごく価値のあるものなのでは？と気づく目線も大事。例えば日常食べているものが外から来た人にとってはとても魅力がある。「ワカメしゃぶしゃぶ」なども体験としてとても素晴らしいもの。



ジオパークのエリアはトレイル上でも外国人の方に特に興味をもっていただける。ジオパークはこの地域の魅力。地域にいる人々がジオパークやトレイルをしっかりと語れる状況を作っていけば良いだろう。地域を歩き、ファンになった人は、リピーターにもなるし、製品の購入者になってくれる。まずはトレイルをめがけてこの地域に来てもらい、ハイカーは歩く速度で地域に出会う。地域のみなさんそれぞれが、地域のありのままを伝える。ありのままが地域の魅力であることに気づいてほしい。



ジオ&トレイルウォーク

またアーティストが地域に来て住みながら制作・創作活動をするAIR(アーティストインレジデンス)事業も、他者の地域理解につながる。彼らはその地域のファンになって地域の良さを発見し、発信してくれる方々でもある。

この地域のファンを増やすということから地域経済を活性化していけばと願っているので、皆さんと共にみちのく潮風トレイルを育て、この地域を盛り上げていきたい。

* 全4回にわたって連載しました。(完)

【五葉山の勉強会】
2月29日大船渡市にて開催



三陸ジオパーク全体の地質概要



北部北上帯

- 通称：ジュラ紀の付加体
(約3億2千万年前～1億4千万年前)
- 白亜紀～古第三紀の堆積岩・火山岩が分布
(約1億3千万年前～4千万年前)

南部北上帯

- オルドビス紀～白亜紀の堆積岩
- 約5億年前～1億年前の地層が連続的に分布

早池峰山～釜石を境に異なる地質帯が分布



ガイドによる紙芝居

「もーりい の さんりくジオ話」
三陸ジオパーク専門員の盛合秀がお届けします

～震災から13年経っての思い～

このコラムを書いている日が、3月11日ということもあり、震災当時のことについて書いていこうと思います。

私は小学6年生の時に震災を経験しました。目前に迫った卒業式の練習中、大きな揺れに襲われました。すぐさま全員で椅子に頭を隠し、揺れが収まるのを待って校庭に避難。校庭へ出ると数ヶ所地割れが起きていました。ただ事ではないことが起きた。幼いながらも危機感を持っていました。その日は雪が降っていたため、防寒着を着てすぐさま学校の裏山に避難しました。山の中腹くらいに開けた場所があり、そこから町の様子を見ると、町中を黒い波が襲っていたのです。一瞬で言葉を失いました。

幸いにも家族は全員無事でした。しかし、自宅は全壊。当時の私の部屋には巨大な丸太が突き刺さっていました。沢山の思い出が一瞬で失われたような気持ちでした。

そして今日、震災から13年が経ちました。13年経ってふと思ったことは、震災を経験していなければ、地質や地震のことに興味を持っていなかったはずです。(震災前の将来の夢は全く別なものでした)震災を経験したからこそ今の自分があると思っています。沢山のものを失いましたが、それと同時に興味を持ったものについて学び・知識を身に付け、そして今ではジオパークの魅力を発信する立場になりました。

三陸ジオパークは、地質・生態系・文化の多様性はもちろんですが、災害の歴史を後世に伝えるという大きな役割があります。震災を経験した一人として出来ることを考えながら、三陸ジオパークの魅力発信、そして震災伝承を行っていきたくです。

認定ガイドが地域の皆さんとジオイベントを開催

海を知ると、もっと地元が好きになる

皆さん、お久しぶりです！以前に現地推進員として記事を書いていた町田です。
現在は三陸ジオパーク認定ガイドとなり、主に北部エリアで活動をしていますので、昨年実施したイベントを皆さんにお伝えしたいと思います。



八戸市のシーカヤック事業者の北三陸OUTDOORSさんと、久慈市の漁師さん南侍浜漁業研究会の皆さんと連携をして、久慈市の漁港を使ったシーカヤックとウニを楽しむ体験をしました。

まずは楽しみながら海に足を運んでもらい、その地域の特産品やジオパークのお話をし、さらには三陸ジオパーク全体に興味を持ってもらえるようなイベントにしたいと思い、昨年の北部ブロックの活動として実施をしました。

地元の方に多く参加をしていただきましたが、カヤックをすることはもちろんのこと、漁港に来ることもそんなに無いそうです。

地元の子供でも生きているウニを触ったことが無く、動くウニに興味津々でした。

会場となった久慈市の麦生(むぎょう)漁港は、ウニの磯焼け問題の対策として、冬にも出荷できるよう養殖をしております。

ウニの餌となる海藻類は花崗岩などによく付着しているのが見られますが、麦生漁港も様々な要素で海藻が良く育つ環境だからこそできる取り組みなんですね。

地形や地層から生態系が生まれ、そして人の生業ができることは、まさにジオパークであり、地域をもっと知ることができる楽しみの1つだと思います。

そして、その地域に住む私たちの取り組みも、時代とともに変化に対応しなくてはならないものだと、ジオパーク活動を通して実感しました。

久慈市麦生のウニは「黄金雲丹」として、ウニが品薄になる冬にも出荷できるよう、高速バスや新幹線を使って東京都に直送する取り組みも進めています。

SNSでは素敵な動画も見れますので、是非ご覧ください！

『黄金雲丹』インスタグラム ⇨ @golden_uni_mugyo
https://www.instagram.com/golden_uni_mugyo/

編集後記： 春は、別れと出会いの季節ですね。ジオパークの担当者も数名ずつ必ず変わっていきます。こればかりは避けられない制度ですね。今年度は特に再認定の年でしたので、いろいろとお世話になった方も多く、別れの淋しさが募ります。きっと異動先でも、ジオだよりやSNS投稿を見て下さると思いますので、三陸ジオパークのフォローを増やすべく引き続き頑張っていこうと思います。さて、このところ連載の関係もあったので4ページの紙面で編集し、発行が「合併号」続きとなっていました。来月からは従来の2ページでの毎月発行になる予定です。FacebookとX(旧Twitter)の投稿も、どうぞよろしくお願ひ致します！ ~と~

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

(宮古地区合同庁舎2階)

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

<https://sanriku-geo.com/>

Facebookはこちら

